

ひろば大代

NO. 188

大代公民館

阪神大震災の

大代町出身者の被災報告

公民館長 渡 吉正

このたび突然襲った未曾有の大地震一瞬にして地獄と化したその光景はテレビや新聞だけでは到底想像も及ばない惨状であったであろうと推察するものであります。

この震災で亡くなられた方々へ深く哀悼の意を表し、未だに行方不明の方々、そして負傷された方々、家屋損壊の方々へは心からお見舞い申し上げます。しかし、幸いなことに大代町出身者で亡くなられた方は無いまでも家屋、全壊の上、頭部から肩にかけて負傷され入院加療の上、二度も手術を受けられた山本伸子さん（植松の山本夏義さんの四女）は九死に一生を得られて、この程退院され本当によかったと安堵の胸をなでおろしました。

ご家族やご親戚の方々のご心痛は如

何ばかりであったであろうと推察致します。

被災状況につきまして各自治会長さんを通じて、その内容を調査してもらい公民館へ報告して頂きました。

その結果をまとめ次のように判断させて頂きました。

「負傷一名、家屋全壊六軒、同半壊一軒、同一部破損十軒」（これはご家族又は親戚方の申請によって作成したものですから漏れがあるかも知れませんが、もし該当の被災者をご存じの方は公民館へお知らせ下さい。但し一部破損以上のご被害の方です。）

家屋内部の被害につきましては阪神地域（淡路島を含む）在住の大方の方々に及びますので、誠に申し訳ありませんが、失礼させて頂きました。悪しからずご了承下さい。

お見舞金は去る二月八日付で現金をお送りしましたところ受け取られた方々からお礼の手紙や電話を頂きました（掲示板へ張り付けてあります）皆さんお元気で頑張って居られる様子ばかり、大変嬉しく思いました。

それぞれの手紙を拝見させて頂きま

すと苦しい時、困った時はやはり古里を想い浮かべて感慨に浸っておられます。

下飯谷の和田智恵さん（和田静雄さんの長女）からの手紙には「見舞金や心温まる手紙ありがとうございました。大代に生まれてよかった」そしてもう一枚の便箋には「大代に生まれ育ったことを誇りとし、復興に力を注いで歩みたい」と書きしるしてありました。せめて温かいものでもと僅かなお見舞を送付しましたのにこのような嬉しい便りを頂いて、こちらが返って感激させられました。

被災者の皆さん、皆さんには生まれ育った古里大代町があります。難儀なことがあったら何でもご相談下さい。いつでもお受けします。未だ寒さの折、風邪など引かれないようお身体には充分気を付けて復興へ向けて頑張ってください。

最後になりましたが被災の方々のお名前をお知らせ致します。（但し家屋一部破損以上のみ記します）敬称略

【負傷】

神戸市（植松）山本伸子

【家屋全壊】

神戸市（植松） 山本伸子
 神戸市（下飯谷） 和田智恵
 西宮市（四日市） 西本弘志
 神戸市（山田） 原田繁徳
 尼崎市（下飯谷） 砂原政好
 西宮市（元植松） 川崎哲二

【家屋半壊】

神戸市（上市） 中尾亮子（旧市原）

【一部破損】

西宮市（下市） 藤島昭義
 豊中市（下飯谷） 高村武義
 明石市（植松） 窪田三千恵
 同（植松） 米倉典子（旧窪田）
 神戸市（上市） 丹波津子（旧田中）
 西宮市（八反田） 細井克枝（旧竹間）
 神戸市（柿田） 岡田吉平
 同（元植松） 佐藤春江（旧川崎）
 同（元上市） 森脇ハナ
 同（元上市） 森脇宏子

※—大代町民の皆さんへお礼—

このたびの阪神大震災へ対するお見舞金をご寄付下さり誠に有難うございました。お陰様で総額二十四万円集まりました。受取られた皆さん方からの

お礼状、電話が公民館へ届いております。

—生と死は紙一重、

温かい心に感謝—



関西高山会事務局長 中本 弘

この度の阪神大震災に対して、大代町民の方々の心温まる御見舞心からお礼を申し上げます。

関西高山会としては大代公民館が中心となって、この震災で被災された方の被災状況等を調査し、その結果をすぐ送って頂き、その対応の早さに感謝致します。

さてこの震災で不幸にして亡くなられた方は、五千人を超え、また被災された方も三〇万人近くと言う大災害であったことはご存じのとおりです。テレビで連日のように放映されるのを見るにつけ、人間の生と死は紙一重の感じを強くしました。

同じ家の中に居ても場所により生と死に別れる、また早朝いつもの通りジョギングをしたばかりに家屋下敷になり亡くなるといった具合で、まさに筋

書きのないドラマであります。

そこで先日A新聞に天王寺区にある一心寺の住職が次のことを述べておられるのが目にとまりましたので紹介します。

仏教の教えの「往生」という字は生きて往くと書く。人の死は死んで無くなるのではなくむこうへ更に往くんだという考えである。

お寺は「あの世ツアー」をお勤めする、この世の営業所だと。かように考えれば生と死は紙一重であり、そんなにこだわることもないなと一人苦笑した。生きて往くのであるからその思い出をしっかりと持って行く必要があるうその持つて行くものは一つでも多くの思い出、生きたあかしの積み重ねではなからうか。常に「前を見て」自分に出ることは何かを考え「見える形」で感激し、成功する人生を送るべきであると考える。

今回被災にあわれた方は大変でしょう。どうぞプラス思考で頑張ってください。

関西高山会ふる里大代町と連絡をとり合い何とか御支援出来ないかと考

えております。手をとりあい共歓、共汗、共感し「禍を転じて福となす」の諺のように努力しようではありませんか。震災に対するふる里の温かい対応はさすがと思いました。石川琢木の句を紹介して感謝の意とします。

ふるさとの山は向いて言うことなし
ふるさとの山はありがたきかな

卒業を間近に

—平成六年度卒業生十一名—



早くも三月に入り季節は卒業シーズンを迎えました。今年四月から三中全会のため、大代中学校最後の卒業生十一名が巣立っていきます。

卒業はもとよりクラブ活動、スポーツ活動を通じて県下に勇名を馳せ、また敬老会や文化祭、都市とふるさと交流会など地域のために大きく貢献してくれた生徒たちでした。

卒業生の皆さんが明るい抱負を寄せて下さいました。

- (1)氏名(自治会)
- (2)将来の進路と希望
- (3)趣味と特技
- (4)将来こんな大代町を作りたい

★(1)後藤克也 (上市)

(2)田中公道さんのように世界をまたにかけた仕事が見たい。

(3)趣味・土曜映画劇場を見ることが、スケボーで坂を風のように走る事。

(4)大江高山を中心とした大規模な観光地プロジェクトをなんとしても成功させたい。

★(1)下垣貴也 (下飯谷)

(2)江津工業の電子情報科を出てコンピュータ関係の職業に勤めたい。

(3)趣味は機械をいじったりラジコンを改造したりすること、唯一の特技はお金をよく使うこと。

(4)大代町をそんなに都市化しないでこのままの自然を残した町でいてほしい。都市化が進んで空気を汚したくありません。

★(1)鉦 康範 (川上)

(2)高校進学し、就職したい。できれば

ば整備士になりたい。
(3)趣味は自動車、特技は耳を動かすことが出来る。

(4)大代町を活気のある町にできればよいと思っています。高山の自然をこわさずに、観光客を増やせればと思っています。

★(1)横田雄一 (上市)

(2)将来は機械・自動車の整備士になりたい。そのためには整備士の資格を取らないといけないので頑張りたい。

(3)趣味はプラモデルやラジコンを作ったりすること。とにかく、手で何かをかまうこと。特技は体の関節を鳴らすこと。
(4)今のままの自然のきれいな大代。

★(1)角 晃子 (川上)

(2)高校を卒業し、看護大学を出て看護婦になる。

(3)趣味は暇なときに歌を聞くこと。いろいろな所に行くこと。

(4)ヘルパー協会を作り、一人暮らしのお年寄りの生活をよくしてあげたい。

★(1)坂本さやか (山田)

(2) 高校に進学してその後は専門学校に進むか就職したいなあと思います
 (3) 趣味は音楽観賞であいた時間にはいつも音楽が流れています。もっとたくさんの種類を集めて聴いてみたいです。

(4) 大代町にはまだたくさん自然があります。その自然がなくなってしまうようにいつまでも緑が残っているような町で、今より活気のある町になればよいと思います。

★(1) 笹木望美 (平)

(2) 大学を出て中学校の先生になりたいです。

(3) 趣味は音楽観賞、特技のお菓子作りは上手です。

(4) 開発も必要だがこのまま自然の多いところであってほしいです。

★(1) 田中 瞳 (川上)

(2) 高校卒業後、短大へ行き保母になる。子供に好かれるような保母になりたい。

(3) 趣味は音楽観賞といろいろな花を見てその名前を知ったり飾ったりすること。特技はどこでも歌が歌えることと、ピアノが多少弾けること。

(4) 今とあまり変わらないでいてほしいが季節が変わるたびにいろんな所にいろんな花が咲いていてほしい。

★(1) 原田陽子 (下市)

(2) 高校卒業後、外語大に進む(予定)その後教師(英語)をやりながら小説を書いていきたい。

(3) 趣味は紅茶のコレクションをして飲むこと(紅茶は葉からに限る)

特技はクッキー作り。他のものはたいてい出来ませんがこれだけは年季が入っていてうまく出来ます。

(4) 自然を残したまま発展した町になってほしい。

★(1) 山下静江 (柿田)

(2) 遼摩高校生活福祉系列を卒業し、何年かかってもいいので介護士免許を取りたいです。そして老人ホームで働きたいです。

(3) 特技は友達を笑わせることです。ちょっとしたことでも私が笑えば、みんなも笑ってくれます。それが私の特技でもあり楽しみでもあります。

(4) この大代町を明るく楽しい町にしたいです。新しいイベントもどんどん考え、みんながこの大代で暮らしたくなるような町にしたいです。

たくなるような町にしたいです。

★(1) 山根啓子 (本郷)

(2) 高校に合格して、将来は保母になりたいです。

(3) 趣味は読書です。本を集めひまな時に読みます。特技は子供が好きで小さい子供のめんどうをみることに。きれいで都会の人々が住みたくなるような大代町にしたいです。

若い人達が都会へ出ていくけれど私は空気がきれいで緑も多いし、大代町はとていい所だと思っからいろんな人に住んでもらいたいです。

福祉弁当を作って

椿 柿丸寿枝



二月の福祉弁当は私達椿支部が作らせて頂きました。前以て限られた予算の範囲での献立作り。

一日に三十品目を食べるのが理想と聞いています。なるべくそれに近いように少しでも美味しく、又身体にやさしいものが出来ればと、みんなでありたいの知恵を出し合い話し合いました。

寒い日が続いていましたが、弁当作りの十九日、まるで私達の為のような暖かい日和に恵まりました。

炊き込み御飯・煮粥・酢の物・揚げ物・寒天等々それぞれが分担してこの時とばかり日頃の腕を振るっての作業でした。弁当箱に次々と出来上がった品を盛り付けて、落ちのないように再度点検をして完了。出来上がった弁当を見ながらほっと一息。

この次は煮粥の量を増やして、彩りにも気をつけた方がいい等と、盛り付けて見てからの反省点も多々ありました。

一つの事を仕上げる為に全員が力を出し合い、協力しながら親睦を深めていくのです。主婦の私達が毎日手掛けている料理でお役に立つ事が出来る。難しい事は出来なくても、私にだけ出来来る事はあるのです。そして、それが地域の社会のお役に立つのならこんなに素晴らしい幸せな事はないと思います。

彩りも形も味も出来ませんが、全部心を込めての手作りです。一品でも「美味しい」と召し上がって頂けたらど

んなに嬉しいことでしょう。

—大代の昔話—

「あずきとき婆さんの話」

昔むかしあったげな。椿のがけんどを通ると、ゴシゴシ、ゴシゴシ。サラ。と、かごに何かをとぐ音が聞こえたげな。

そりゃあーもちつと昔 あまり仲のようない嫁としゅうとめが、小豆を煮ることがもとで けんかしたことが始まりだとー。その時、小豆がうまげに煮えとりさえすりゃあこがあな事になつとらんだつたらうがのう……。

ある日、嫁さんが小豆を煮たら ちつともうまげに煮えんかった。

「なしてこの小豆はうまげに煮えんのかいな」

と独り言をいっていたら、婆さんが見るに見かねて

「さらつと煮えとつたらさーつと、うついてな、それをざつと上げて水をかえてこんど煮たら早う煮えるでえ」

と言った。そこで嫁じようさんが「こんな婆さん小豆を煮ることまで世

話をやきなはる。とても婆さんをこれに（この家に）置いちややれんけえ、どこぞのネコにでもくわしちやりやええ。」

と言うて、嫁じようはどこからか黒いネコをつらうてもどつたげな。嫁じようはネコに ように言うてかして、又そのネコがよう言うことをきいて、そのとおりしたげな。

ネコまた（化けネコ）とでもいうのだらうてえなあ。

あくる朝 婆さんを起こしても起きてこんので、息子が

「婆さん、起きて朝飯を食いんさい」と言うたら

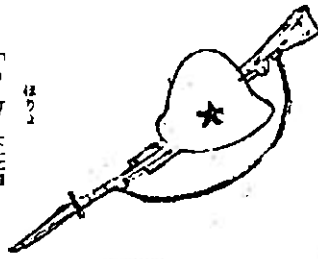
「起きられりやせなあや。ように目ははしつて（痛くて）夕べ何だらが目をほぜつて取つたけえ、見てごせえや」と婆さんが言うので見たら、目の玉が無いようになつとつたげな。ように婆さんはやれんようになつて、尻しごの守り（大小便の処理）もいるし、そしてとうとう 死んでしもうた。たいがいネコが半殺しにしたようなもんだ。

それから毎晩のようにその婆さんが迷うて出て、シャッシャ、シャッシャ

小豆をときあげる音がするようになったげな。人がように恐れてしばらくたってから、供養のために施餓鬼をしたり、地藏さんを安置したりしてからはその音が聞こえんようになったげな。今でも、八月十三日に供養の盆踊りをしとるとなあー！

樺の山口ヒサさんより

戦時体験記



「PW生活」



本郷 増田長之助

フリーリッピンミンダナオ島は北海道・青森・岩手を併せた程の面積を持つ島で、ジャングルや高く険しい山もあって、投稿するまで何とか生き延びることが出来たもので、ミンダナオ島を取りまく小島を守備する部隊は、レイテ

島玉砕のように多数の犠牲者を出している。しかし、こうしたミンダナオでも五万四千五百名の戦没者を出している。

避難のこの山から白旗を揚げ米軍陣地に投降する。米軍陣地の鉄条網前で汚れた風だらけの服をぬぎ、禪一枚となり、僅かな日用品をさげ中に入る。早速米兵の服が支給される。上衣は背中と両腕にズボンはお尻と両足に白ペンキで大きくPWと書かれてある不名誉な紋服姿だ。収容所に入ってから将校が炊事当番だ。軍隊では一に通信二にラッパ、三に炊事のツマミ食とい

って訓練も楽で割のよい任務とされ、炊事当番は食欲の旺盛な兵隊さんに好都合、米軍の指示に依る将校の炊事当番には不満もあり、ボヤクことごとく。生鮮野菜の料理は殆どなかった。

最終的にレイテの収容所に移された五米位の高さの鉄条網に囲まれ、四隅に櫓があって米兵が警備に当たっている。毎日引率されて外部の使役に駆り出される。門の前で四列横隊に並び、人員早に番号を叫ぶ。引率兵はかがみこん

で地面に書いて計算する。やおら立ち上がると再び番号だ。計算が合わぬ様子われわれもだらけて、三人列になったり、四人になったりで、ますますわからなくなり、ついに二人宛分けて計算する始末。米兵が全部そうとは思わないが、暗算で簡単に計算出来る日本の義務教育の有り難さと思う。

使役中に米兵がタバコを取り出し、一服吸って足元に投げる。タバコに不自由している近くの兵隊四、五人が一緒に拾いに行く。すぐに足で踏み消してしまふ。まるで我々をからかっている様子だ。実際にタバコはない喫煙者には何とか手に入れたい。収容所内では米兵の帰国みやげ(占領品)にするのか、時計、万年筆、寄せ書きの日章旗、日本軍の階級章等でタバコと交換していたが、いつまでも交換する品物があるわけではなく、ハンカチに赤チンで日の丸を書くなどの手段で交換器用な人は立派な浮世絵を書いて沢山のタバコをせしめている。

荷運びの使役に行く引率者が「ハバハバ」と叫ぶ。「早く〜」と言うことらしいが、タバコ拾いの件もあった

りで、われわれも「ハイ、ポチポチやれ」と叫びながらからかい半分。米兵は日本語と勘違いしてまじめな顔をして「ポチポチやれ」と叫んで指示をする。ふき出したい気を押さえて顔を見合わせ使役する。重たい荷を動かすのに三、四人力を合わせて「セイノ」とかけ声をかけて動かす。どう理解したのか、大きな荷には「セイノセイノ」と叫び指示する。彼等の日本語なのだろう。皆朗らかに楽しく使役をやった。或る日 野戦倉庫の使役に行った。水陸両用車に新しいゼラルミン板(三〇センチ×二メートル)を積み込まされた。

どこか他の場所に積み替えるのだと思ったら、その後、海に漕ぎ出し、深い所まで出たら「捨てろ」と言う。なんと勿体ない、持てる国は違うなと思うが指示のまま海中に投げ捨てる。濁りない海に、キラキラと光りながら沈んで行く。小さくなるまで見える。飛行機のビラ撒きのように奇麗だった。収容所内の唯一の娯楽は、幕舎対抗の相撲大会だ。日頃のアレコレを忘れて懸命に応援する。

辛い思いの日もあったが、皆楽しく帰国の日を待って、元氣一杯其の日その日を過ごした。PW生活も今ではよい思い出となった。この相撲大会で非常に強い人が居て、深く印象に残った人がいた。後に私が大代の住人になってから、この人が当地の永井吉一さんとわかり、その奇遇に驚いた。

* 三月行事予定 *

- ◆ 4日(土) 西部ブロック研修会
- ◆ 5日(日) 婦人会総会
- ◆ 7日(火) 編集会議
- ◆ 7日(火) J A 健康診断結果
- ◆ 9日(木) てのひら会役員会
- ◆ 10日(金) J A 営農座談会
- ◆ 14日(火) 中学生激励会
- ◆ 16日(木) 中学校卒業式
- ◆ 18日(土) 幼卒園式・小学校卒業式
- ◆ 19日(日) 福祉弁当
- ◆ 22日(水) 連合自治会
- ◆ 24日(金) 送別会



★——★おしらせ★——★

◎社協大代支部より

山田 畑 誠 様より

香典返しに替えて金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。

四日市 大家農機(有)

代表下垣公人様より

金一封の御寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。

